

# 58 菊池東水著『解馬新書』について

松尾 信 一

信州大学

菊池東水著『解馬新書』は、嘉永五年（一八五二）に刊行され、今年は百五十四年になる。『解馬新書』は全二巻二冊から構成されている。

解馬新書は長崎の和蘭通詞・堀好謙訳の馬術叢説（正しくは西洋馬術叢説）の馬腸の記述の詳しいことに強く感銘を受け、わが国の二氣五行の説を打破し、解体新書（正しくは重訂解体新書）などを参考にして著述したと記してある。したがって、解馬新書はオランダの馬体解剖書の翻訳書ではない。

巻一は著者菊池東水と門人三名

江都	東水菊池藤原武樹	編輯
豊後日出	加来茂英	校定
伊勢洞津	守屋頼潤	校正
豊後臼杵	高崎正直	参訂

巻二は著者菊池東水と門人二名

江都	東水菊池藤原武樹	編輯
豊後日出	加来茂英	校定
豊後臼杵	高崎正直	校正

附図は高崎正直画となっている。

解馬新書には引用書十五部が記してある。解体新書（重訂解体新書）。医範提綱（西説医範提綱釈義）。眼科新書。眼科錦囊。解臟図賦の五部の医書。

馬術叢説（西洋馬術叢説オランダ馬書の翻訳書。馬經大全（馬師問編「新刻參補針医馬經大全」中国古馬医書）。旋毛全集（相馬旋毛全集）。相驥鑑。医馬膈穴度考（医馬穴膈度功）。驪黄物色説（驪黄物色図説）。司牧安驥集（中国古馬医書）。調息伝（調息伝秘書）、計都留伝（阿蘭陀馬書又は西説伯楽必携。八代將軍吉宗時代に渡来したオランダの調馬師ケイゼル関連の馬書）。以上、オランダ関係二部、中国古馬医書二部、わが国の馬書五部の九部。

本草綱目（中国の代表的本草書）一部である。

菊池東水が感銘を受けた西洋馬術叢説（西洋軍用馬

術叢説)は全六巻からなり、文政—天保の頃(一八三〇年前後)の写本がある。

卷一、二、三、和蘭 以・斯・笨母児 イ・ス・ベジムル 編述

崎陽 堀好謙専次郎 訳述

卷四、和蘭 傑・唱・令 脳廁 ゲイ・ハル・リン オウス 編述

崎陽 堀好謙専次郎 訳述

卷五、六、和蘭 於・百・叔未児 イ・ヘイ・ジヨメル 編述

崎陽 堀好謙専次郎 訳述

卷四 第二十三馬腸

馬の腹部を解剖するに最初に解たる形状は大腸(胃より肛門に終る一条の腸なれども其の形状主用の同じからざるに依て六腸に分つ即ち十二指腸、空腸、廻腸と続く、此の三腸は其の管薄して窄小なるが故に小腸と云ふ。次に盲腸、結腸、直腸と続く此の三腸は其の管厚くして潤大なる故に大腸と云ふ)の三箇の大囊を見る。其の一を盲腸(其の太き所下側に潤く張出して状囊底の如く他に通ずるの道なし、故に盲腸と云ふ)と云ひ其の長さ一尺五寸より二尺に至る。其の周囲は一尺に近し、此の腸は結腸(糟粕此に至て専ら結成す

故に此の名あり)に終て直腸と連続し其の長さ二十一尺余となり、結腸の広さ一ならず、其の裏面許多の贅疣の如き張出しあり、是れに依て丸形の糞を結成す。亦た此の獣の性質にして胃小腸及び網膜は他の獣に比較すれば至て小し。小腸は長さ五十六尺余あり、又、腸の廻曲する事、胃より肛門に至る迄凡そ七十七曲す、大小二腸総て八十尺余の長さあり。とあり、江戸時代における最も詳細な日本語による馬の小・大腸の詳しい解剖記事である。

演者は以前、家畜・家禽の副腎について調べていたが、解体新書には「ベインイレ 贅意你連」此ニ「小腎」ニ翻ス。重訂解体新書には「側腎」蘭 ベインイレ 婢尼盧。医範提綱には「腎腺」一名「副腎」とある。しかし、解馬新書には副腎についての記述はない。Snape A. *Anatomy of an Horse 1683* には「deputy kidney」とある。蛇足として、増井・田村(演者の恩師の師)一九二六年マウス副腎の X zone を発見している。婢尼盧: byner はオランダ語。